

耐火・除湿優れた外断熱

住宅メーカーの北洲

(宮城県富谷市)は、東京国立博物館(東京・台東)で建設中の別棟に、独占販売契約を結んでいるドイツ社製の外断熱システムを納入する。耐火性や除湿性に優れ、環境負荷の低減につながる点が評価を受けた。今回の採用を契機に官公庁や集合住宅をはじめ、美術館など断熱性が重要な建物に売り込む。

ドイツの外断熱システムメーカーであるアルセコ(ヘッセン州)が手掛ける外断熱システムを納入する。不燃断熱材やガラス繊維のメッシュを組み合わせており、100%の不燃性を備えているという。

水蒸気が外部に逃げやすい構造になっており、湿気がこもりにくく、日本の多湿な気候に対応できる。地震の揺れが伝わりにくいのも特徴で、外

北洲のドイツ製システム 環境負荷低減を評価

部からの衝撃にも強い。雨にぬれると汚れを落とす効果があり、壁面をカラフルに仕上げることもできる。

外断熱システムは環境負荷を和らげる効果もあり、環境先進国であるドイツなど欧州を中心に集合住宅や官公庁などに広く普及している。アルセ

コは断熱工事の全パーツをシステム化して販売し



独社の断熱システムは不燃性に優れている

ている。
納入先である東京国立博物館の別棟は主に職員が業務に従事する場所と想定だ。建物の大きさは非公開だが、アルセコは19年度中に完成する予定だ。

北洲は06年にアルセコと提携し、08年から日本総代理店として外断熱システムを独占販売している。11年には東京国立近代美術館フィルムセンターの収蔵庫へ納入した実績がある。その実績が評価されて採用に至った。

村上ひろみ社長は「アルセコの断熱システムを日本で唯一手掛けている点を訴え、顧客獲得を目指したい」と話し、今回の納入をきっかけにさらなる販路拡大につなげる狙いだ。

北洲は1958年に建築資材販売として創業後、79年に住宅事業へ参入した。現在はリフォームと合わせて3事業を中心に展開している。18年8月期の売上高は約170億円で、従業員数は468(5月1日時点)人。